

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0218
施設名	葛飾学園
施設所在地	葛飾区西亀有 2 - 3 5 - 3
法人名	社会福祉法人葛飾学園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

色の探求（えのぐ）

<テーマの設定理由>

生活空間には様々な色が存在するが、子ども達は主に日常保育で使用しているクレヨンの色（の名前）をもとに考えたり話したりしていることが多い。一方で自然の中でははっきりとした濃い色をしているものはそう多くない。そのことから色を指・手・体など全身を使って楽しみつつ、色の混ざり具合や変化・微妙な色合い等を感じて、探求してみた。

2. 活動スケジュール

- ・【8月-1】夏の水遊びで指に付いた水で土や壁に絵を描いている姿があったがすぐ乾いて消えてしまっていたことから、目に見える（残る）ものでやってみることを保育者が提案。まずは指で描いてみる。
- ・【8月-2】少し大きく混ぜて楽しめるよう手のひらを使って絵の具を混ぜてみる。
- ・【8月-3】机の上よりさらに大きな場所で、友達同士で混ぜたり見せ合ってみる。
- ・【12月】自分たちのクリスマスツリーを考え、色や手やそのほかの道具も使って作る。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・指で絵を描けるよう、絵の具や白画用紙を用意。
- ・手のひらで自由に絵の具を広げられるよう、保育机にラップをかけた。周りの汚れを気にしなくて良いように机の下にはブルーシートを広げた。
- ・グループ毎で描いたり混ぜたりをしやすいうよう、床に模造紙を広げ、腕や足なども使えるようにした。
- ・ツリーを描くときは、絵が映えるよう（雰囲気も味わえる様）黒の模造紙を用意。連想される雪や植木鉢などを表現する時に使えるような玩具や道具などを準備しておいた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・【8月-1】夏の水遊びで指に付いた水で土や壁に絵を描いている姿があったがすぐ乾いて消えてしまっていたことから、目に見える（残る）ものでやってみることを保育者が提案。まずは指で描いてみるころから慣らしてみた。
- ・【8月-2】指で描いていくうちに混ざると色が変わっていくことに気づき、少し大きく混ぜて楽しめるようテーブルの上で手のひらを使って絵の具を混ぜてみることにした。
- ・【8月-3】手のひらでの感触が楽しかったとの言葉から机の上よりさらに大きな場所で、友達同士で混ぜたり見せ合うことが楽しめるようにしてみた。
- ・【12月】自分たちの保育室にもクリスマスツリーが欲しいとの話から、どんな色でツリーが描けるかを子ども達と考え、手やそのほかの道具も使って作ってみた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・【8月-1】絵の具には慣れていても指で描くことに少々抵抗がある子もいて、色の混ざりが少ない絵もあった。一方、混ぜることに夢中になって画用紙に展開させる子もいた。「花火を描いた」と言う子や「色を混ぜて遊んだ」と話す子もいた。
- ・【8月-2】机の上に洗濯糊を混ぜた絵の具を広げ友達同士で混ぜ合い、紙に転写してみる。子ども達の中から「おおーっ！」と歓声が上がり、すぐにダイナミックに触れ楽しむ姿が見られた。日頃積極的には話しいかない女兒が、友だちに「こうしよう」と提案し、興奮している様子があった。
- ・【8月-3】“お泊り保育”という特別な行事の中で行ったこともあり、色の混ざりあいより絵の具の感触や汚れを楽しむ姿も多かったが、ダイナミックに遊ぶことが出来た。
子「オレンジ色はどうやってつくるの？」保「どれを混ぜるとできるんだろうね？」
子「青と黄色を混ぜるとみどりになったよ」子「え、すごーい」
子「ねえ、みて！あしのかたちもついたよ」
- ・【12月】時間を置いたことで絵の具での遊び方がクールダウンされ、ツリーづくりでは手のひらで混ぜた色を黒い模造紙に転写し、友達同士で形を整えたり、色がついていない部分を埋めようと声を掛けたりする姿が見られた。
子「雪、ふらせたい」子「ツリーの下のやつは？」子「むっちゃきれい！！」



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

色の混ざりあい・変化を楽しんだり、友達同士で混ぜ合っ
て喜んだりといった様子が見られた回は、ある程度
の限られた表現スペースでの展開が主だった。一方、
表現スペースが大きくなり感触遊びが主となっ
た回もあるが、それはそれでもっと全身で楽し
める展開を提供しても良いかと思った。